

事故報告書（事業者→立川市）

資料 3-4

遅れる場合は、まず電話で第一報
を入れてください。

※第1報は、少なくとも1から6までについては可能な限り記載し、事故発生後速やかに遅くとも5日以内を目安に提出すること

※選択肢については該当する項目をチェックし、該当する項目が複数ある場合は全て選択すること

提出日：西暦 年 月 日

☐ 第1報 ☐ 第 報 ☐ 最終報告 ☐ 第1報兼最終報告

1 事故 状況	事故状況の程度	☐ 受診(外来・往診)、 自施設で応急処置 ☐ 入院 ☐ 死亡 ☐ その他 ()											
	死亡に至った場合 死亡年月日	西暦		年		月		日					
2 事業 所の 概要	法人名												
	事業所(施設)名							事業所 番号					
	サービス種別							管理者	提出された事故報告書について、市より問い合わせをさせていただく際、報告書作成者もしくは内容の分かる方				
	所在地							担当者	連絡先 電話 ()				
3 対 象 者	氏名・年齢・性別	氏名				年齢		性別	☐ 男性 ☐ 女性				
	サービス提供開始日	西暦		年		月		日	保険者	〇〇市、〇〇区などの 自治体名	被保険者 番号	介護保険被保険 者証に記載の番号	
	住 所	☐ 事業所所在地と同じ ☐ その他 ()											
	身体状況	要介護度	☐ 要支援1 ☐ 要支援2 ☐ 要介護1 ☐ 要介護2 ☐ 要介護3 ☐ 要介護4 ☒ 要介護5 ☐ 自立										
		認知症高齢者 日常生活自立度	☐ I ☐ II a ☐ II b ☐ III a ☐ III b ☐ IV ☐ M										
4 事 故 の 概 要	発生日時	西暦		年		月		日		時		分頃 (24時間表記)	
	発生場所	☐ 居室(個室) ☐ 居室(多床室) ☐ トイレ ☐ 廊下 ☐ 食堂等共用部 ☐ 浴室・脱衣室 ☐ 機能訓練室 ☐ 施設敷地内の建物外 ☐ 敷地外 ☐ その他 ()											
	事故の種別	☐ 転倒 ☐ 異食 ☐ 介助時の負荷 ☐ 転落 ☐ 誤薬・与薬もれ等 ☐ 打撲 ☐ 誤嚥・窒息 ☐ 医療処置関連(チューブ抜去等) ☐ 交通事故 ☐ 無断外出(離脱) ☐ 利用者間トラブル ☐ 職員の行為 () ☐ 個人情報取扱不備 ☐ 感染症・食中毒・疥癬等(診断名:) ☐ 不明 ☐ その他 ()											
	発生時状況、 事故内容の詳細	事故発生時(発見時)の状況を詳細に記載してください。 記載例A: 居室より大きな物音がしたため駆けつけると、本人がベッド脇に左側臥位で倒れていた。本人意識はあり「トイレに行こうとして転んだ」と話している。本人の頭側にはブレーキのかかっていない車椅子があり、本人の左足の靴が脱げていた。左足が痛いと言い、動かそうとすると苦痛表情を浮かべていた。 記載例B: D利用者宅を訪問し、〇時△分頃退室し次の訪問先へ向かった。訪問終了後事務所に戻ったところ、D利用者のケースファイルがないことに気がついた。											
	その他 特記すべき事項	事故発生前の状況や普段の様子、発生時状況の補足説明など(あれば)書いてください。 記載例A: 本人は普段、車椅子は自分で操作しており、移乗動作も自分で行っていた。 記載例B: ケースファイルには、直近のアセスメントシートやケアプラン、支援経過記録のみ綴じたものだった。											

5 事 故 発 生 時 の 対 応	発生時の対応	バイタルチェック・意識レベルの確認・外傷確認・現場の確認など、事故発生時（直後）に対応した内容について記載してください。 また家族や後見人へ報告の有無についても記載してください。 記載例A：インカムで応援を呼び、それからバイタル測定を行った。BPO/O PO KTO°C、左足は激痛を訴えているが腫れ等は見られず。 2名で抱えてベッドに寝かせた。主治医に連絡し救急搬送の指示を受けたため、第一連絡先の長男に連絡し報告、付き添いを依頼した。 記載例B：利用者に確認したが利用者宅にはなかった。すぐに本社責任者に報告し、対応の確認指示を受けた。○時頃、□□警察に紛失届を提出した。翌日警察より◇で見つかった。							
	受診方法	☐ 施設内の医師 (配置医含む)が対応 ☐ 受診(外来・往診) ☐ 救急搬送 ☐ その他 ()							
	受診先	医療機関名				連絡先 (電話番号)			
	診断名	➡ 受診した場合、医師から聞いた診断名を記載してください。 記載例A：左大腿骨頸部骨折							
	診断内容	☐ 切傷・擦過傷 ☐ 打撲・捻挫・脱臼 ☐ 骨折(部位：) ☐ 体調変化なし ☐ 感染症・食中毒・疥癬等（診断名：) ☐ その他 ()							
	検査、処置等の概要	➡ 受診行われた検査や処置内容を記載してください。 記載例：レントゲン・CT撮影・点滴・内服薬の処方等							
6 事 故 発 生 後 の 状 況	利用者の状況	➡ 事故発生後（受診後～）の状況を書いてください。 記載例A：そのまま搬送先の△△病院に入院となった。○月○日に手術予定、1カ月後には退院予定となっている。 保存療法となり3週間はベッド上での安静指示が出た。現在は終日ベッド上で過ごしている。 記載例B：利用者に紛失したが見つかったことを報告・謝罪した。今回の件で不安があると訴えられた。							
	家族等への報告	報告した家族等の 続柄	☐ 配偶者 ☐ 子、子の配偶者 ☐ その他 ()						
	連絡した関係機関 (連絡した場合のみ)	☐ 他の自治体 自治体名 () ☐ 警察 警察署名 () ☐ その他 名称 () 今回の事故の件で追加対応する予定があればその内容を記載してください。							
	本人、家族、関係先等 への追加対応予定	記載例A：事故発生前の状況について家族より質問があり、○月○日に改めて説明する予定。 記載例B：利用者家族にも連絡したがつながらず、近日連絡就き次第謝罪する予定。							
7 事 故 の 原 因 分 析 (本人要因、職員要因、環境要因の分析)	(できるだけ具体的に記載すること) <u>第一報の段階で考えられる原因分析をした内容を記載してください。必ず、本人要因・職員要因・環境要因の3点から原因分析を行い、なるべく具体的に記載してください。</u> 記載例A：本人要因～車椅子への移乗動作は一人でできていたが、最近腰痛や足に力が入りにくい様子はあった。 急に膝から崩れそうになる様子を確認していた。靴をしっかりと履いてから立ち上がらなかった可能性。 職員要因～最近足が弱ってきていると感じながらも、それに対する対応策を検討していなかった。リハ職に情報共有していなかった。 環境要因～車椅子のブレーキがかかりづらくなっていた。そのため本人がしっかりかけられなかった可能性がある。 記載例B：本人要因～本人に紛失の要因はない 職員要因～次の訪問先に遅刻しそうだったので焦っていた。 環境要因～ファイルの入った袋ごと自転車の後ろかごに入れてしまった。そこから落ちてしまった可能性。								
	(できるだけ具体的に記載すること) <u>まずは第一報の時点で考えられる再発防止策を記載してください。退院後の本人の状態に合わせて対応策を検討した場合は、第2報・最終報の再発防止策に（追加）記載してください。</u> 記載例A：足腰など筋力が弱った様子が見受けられたら、移乗動作時は見守り介助とし見守りを徹底する。 認知症があり、ナースコールを押し忘れてしまうため、ベッドサイドにセンサーを設置し駆けつける。 リハビリ内容の見直しを行い、脚力の回復に努めていただく。 記載例B：ケースファイルを持ち歩く際は、細心の注意を払い、必ず前かごに入れて落ちないようカバーをかける。 利用者宅入室時・退室時にケースファイルがあるか、指差し点検する。 今回の事故発生について、社内ミーティングで情報共有し、個人情報取り扱いについて話し合う。								
8 再 発 防 止 策 (手順変更、環境変更、その他の対応、 再発防止策の評価時期および結果等)									
9 そ の 他 特 記 す べ き 事 項	その他特記事項があれば記載してください。 記載例A：この1カ月で2度目の転倒で今回は骨折してしまった。退院後の状態に合わせて再度再発防止策を検討する。 記載例B：法人としては、今後タブレットに一本化し、紙ベースのファイルは持ち出さないようにする予定。								